

高校生ICT Conferenceについて

主催

高校生ICTカンファレンス実行委員会

(構成団体)

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会

共催

こども家庭庁、警察庁、消費者庁、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省

高校生ICT Conferenceが目指すもの

高校生ICT Conferenceは、次世代の社会を支える高校生が、自ら考え、他者の意見を聴き、議論し、意見をまとめ、発表することにより、将来のインターネット社会に臨む環境整備の一助になることを目指す。

啓発活動における課題

- セミナーやシンポジウム形式に対する理解度・興味の薄れ
- 保護者層の参加率の低さ
- 自己責任に対する意識の希薄



- ネットが分からず対応できない保護者
- 操作能力が高く、安易にネットを利用する高校生
- 知識・経験が不足してトラブルに巻き込まれる小・中学生

大人からのおしつけでなく当事者の高校生が考える

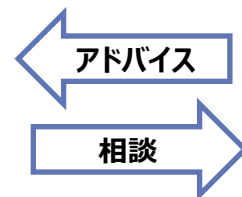
負のスパイラルから正のスパイラルへ

「高校生ICT Conference」が持つ3つの意味

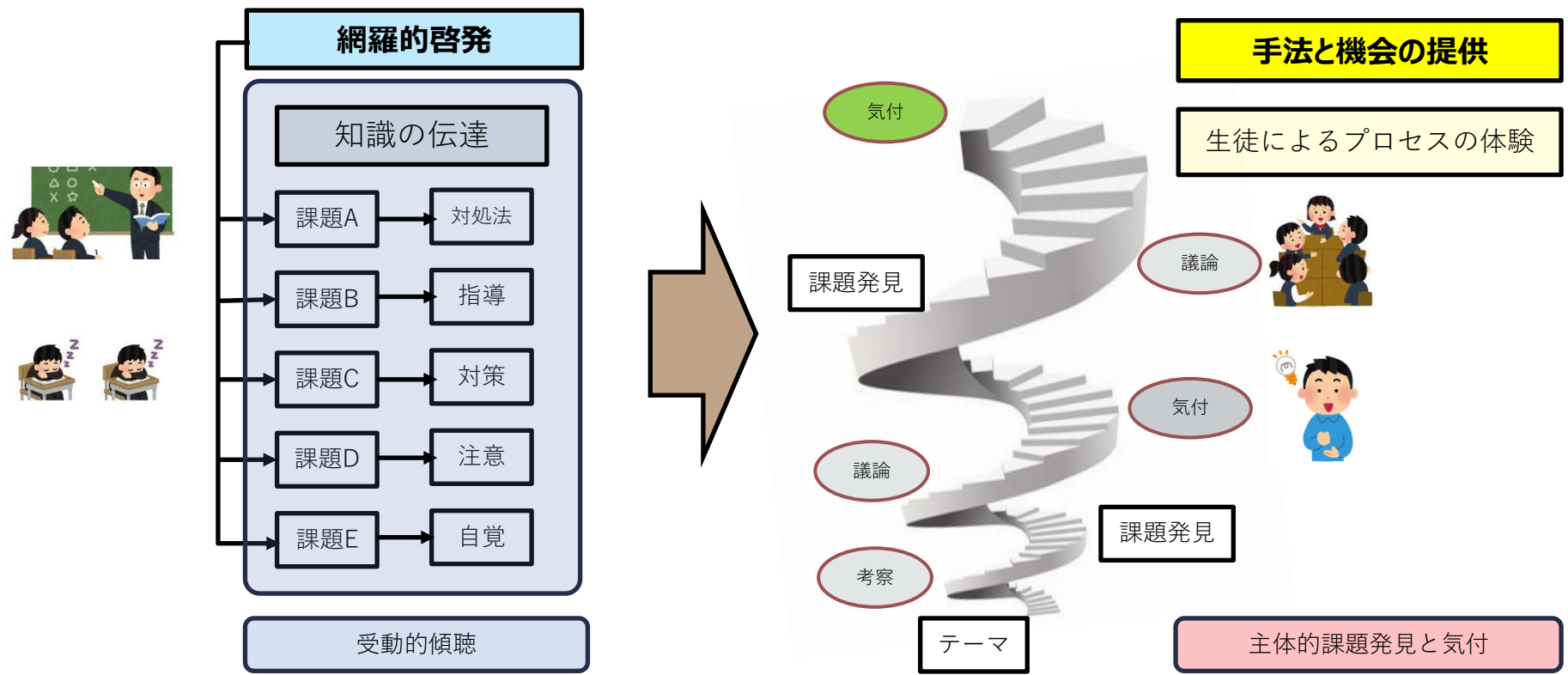
- 当事者である高校生自身の気づき
- 年少の子どもに行動できる高校生の育成
- 次世代の保護者の育成



- リテラシーに加え、情報モラルを獲得した高校生
- 身の回りに小・中学生のよき相談相手
- リテラシーを持って子どものネット利用に目を配ることができる保護者



ICTの活用というテーマについて「考える機会」提供し「気づき」を体験することで、課題について主体的に理解を深める手法と習慣を得ることをめざす



高校生ICT Conference開催概要

テーマ

- 2011年度** 「ケータイ・インターネットの在り方&活用法」 **2012年度** 「スマートフォン時代の情報モラルと利活用」
- 2013年度** 「考えてみよう！情報モラル・情報リテラシー教育の5W1H」
- 2014年度** 「考えよう！これからのスマートなネットの使い方・あり方」
- 2015年度** 「言いたい！イマドキのネットのルール&マナー！！～高校生のボクたちだから～」
- 2016年度** 「ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」
- 2017年度** 「高校生が考える心豊かな生活 ～ICT×（家族・学校・地域）～」
- 2018年度** 「社会で活躍するためのICT活用法 ～18才成人化を控えて～」
- 2019年度** 「人はなぜSNSを使うのか？ ～改めて考えるSNSの使い方～」
- 2020年度** 「新しい生活様式とICT活用法」～行動制限の時代に生きる～ **2021年度** 「フェイクを見極める」
- 2022年度** 「デジタル社会における学び方と学びの場 -オンライン環境で「出来ること」「すべきこと」」
- 2023年度** 「今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは -デジタルウェルビーイングな社会を目指して-」
- 2024年度** 「今、高校生が考える生成AIとの付き合い方 -「誤情報・偽情報」を超えた活用法を考える-」

開催日程例

各地域開催（7月～10月）

各地でワークショップ（議論を重ねる熟議方式）形式の議論を実施し、地域代表1名を選出

サミット(11月3日)

各地での議論をもとに、政府への提言をまとめる議論を行い、最終報告会の代表者を選出

最終報告会(12月初～中旬)

共催省庁に提言を発表、意見交換を行う



2025年度テーマ

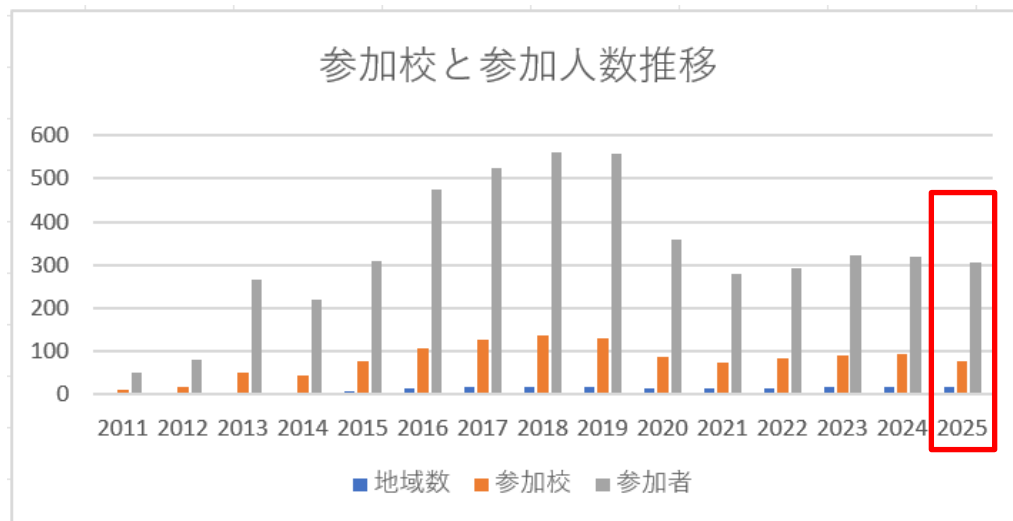
中高生が考える世代を超えたICTやAIの活用と課題解決の提案 ～偽・誤情報等のリスクを見極め、安全で豊かな情報社会を築くために～

ものごころ付いた時から、スマホやインターネット、ICTツールに囲まれて育ったデジタルネイティブの中学生・高校生は、自分たちの生活において意識することなくそれらを取り入れている世代ですが、社会全体を見渡すと、そうしたツールが使いこなせていない、また理解されていない大人、高齢者、かたやデジタルコミュニケーションを前提に生活している更に下の世代まで、幅広く存在している時代であると思います。一方、偽・誤情報の拡散やネットいじめ、闇バイト、エコーチェンバー／フィルターバブル等情報そのもののリスクや、視力低下や睡眠不足といった健康リスクなどについて多くの課題が存在することにも注目しないわけにはいきません。

こうした時代の中で、大人と子どもの間ともいえる中学・高校生世代が、自分の身の回りの人々やニュース等でうかがい知るような課題について、「中学生・高校生の私たちならこう考え、こうしたい、こうできる」という視点をもって、各世代が世の中のICTやAIを使うにあたり、安全で豊かな情報社会を築くための提案をして頂きたいと思います。

2025年度 各地区実施状況と参加数推移

NO	開催日	開催地域	学校数	参加人数
1	2025/7/26	大分	14	47
2	2025/7/29	高知	3	15
3	2025/8/1	宮城	3	17
4	2025/8/13	新潟	4	10
5	2025/8/23	福岡	7	25
6	2025/8/27	長崎	4	22
7	2025/9/14	大阪	4	14
8	2025/9/15	石川	4	15
9	2025/9/15	兵庫	7	27
10	2025/9/15	愛知	4	16
11	2025/9/21	東京	2	19
12	2025/9/23	神奈川	6	13
13	2025/9/27	沖縄	2	16
14	2025/9/28	奈良	4	11
15	2025/10/4	帯広	3	5
16	2025/10/5	札幌	6	28
17	2025/10/12	全国Web	1	6
計			78	306



	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
地域数	1	2	5	5	9	14	17	18	19	15	15	14	17	17	17
参加校	11	17	51	44	78	107	128	137	129	86	73	83	91	93	78
参加者	52	79	267	221	310	476	526	562	559	360	278	291	323	320	306

1. 新規参加および未開催地域（昨年比）

- ・ 新規開催：沖縄
- ・ 開催中止：茨城、長野、静岡
- ・ 開催計画：栃木、広島（2025年度には間に合わず）
- ・ 来期以降：秋田

2. 開催方法と運営

- ・ 中学生の参加をOKとし、東京サミットにもオブザーバ参加の招待を実施
- ・ 高校生かつ日帰り圏内の生徒は教諭引率の必須条件を緩和し教諭の負担を軽減
- ・ 学生ファシリテーターの一部交通費を事務局側で負担し、学生の負担を軽減

3. まとめ

- ・ 中学生の参加形態については各所の意見、評価を以て継続検討する
- ・ 今期、悪天候による開催中止、延期等はなかったが、来期も対策は同様に準備
- ・ 学校行事重複等でカンファ参加希望しながら出場が叶わないケースを複数確認
各地域の年度計画策定タイミングから予定周知をすることを努める

2025年度 地域開催写真



高知開催



石川開催



兵庫開催



大阪開催



東京開催



沖縄開催

2025/11/3 (祝) 東京サミット

日時： 2025年11月 3日 (祝) 12:30～17:10

会場： 株式会社内田洋行 本社ビル 東京ユビキタス協創広場 CANVAS
(東京都中央区新川2-4-7)

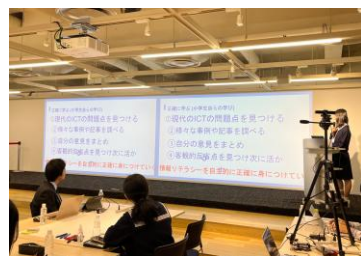
1	札幌	札幌市立旭丘高等学校
2	帯広	北海道鹿追高等学校
3	宮城	常盤木学園高等学校
4	東京	江戸川学園取手高等学校
5	神奈川	湘南学院高等学校
6	新潟	新潟県立長岡大手高等学校
7	石川	小松大谷高等学校
8	愛知	名古屋経済大市邨高等学校
9	大阪	早稲田大阪高等学校
10	奈良	帝塚山高等学校
11	兵庫	関西学院高等部
12	高知	高知県立佐川高等学校
13	福岡	福岡県立筑前高等学校
14	長崎	国立佐世保工業高等専門学校
15	大分	大分県立大分工業高等学校
16	沖縄	国立沖縄工業高等専門学校
17	全国OL	長崎県立松本県ヶ丘高等学校

<オブザーバ中学校>

1	東京	流通経済大学付属柏中学校
2	神奈川	神奈川大学附属中学校
3	奈良	帝塚山中中学校
4	大分	大分県立大分豊府中学校

○会場参加者	78名
・代表生徒	17名
・オブザーバ中学生	5名
・引率教員	20名
・ご挨拶	7名
・ファシリテーター	5名
・地域事務局代表他	15名
・協賛社	2名
・事務局	7名

2025/11/3 (祝) 東京サミット写真



「高校生ICT Conference 2025」最終報告代表者3名が関係省庁に報告

1、日程

2025年12月16日 (火)

2、スケジュール

- 1) 総務省 (10:30~11:30)
- 2) こども家庭庁 (14:00~16:00)
- 3) 文部科学省 (16:30~17:30)

3、参加者

- 1) 総務省 : 省内関係者、発表生徒、米田実行委員長
- 2) こども家庭庁 : 「青少年インターネット環境の整備等に係る検討会」
省内関係者、検討会委員、発表生徒、米田実行委員長
- 3) 文部科学省 : 省内関係者、発表生徒、米田実行委員長

2026年度展開案

- コンセプト

今年度に続き、生成 A I と社会の変化に関するテーマなどを選定中

- テーマ選定

上記展開のなかで見つけた課題の中から次年度のテーマ設定をはかる

- 展開方法

運営委員会メンバー、地域事務局よりテーマを募り2026/2～3月をめどに決定へ

END